

第1回碧南市スポーツ推進計画（中間見直し）策定委員会 会議録

1 日時

令和元年11月27日（水）午後7時00分～午後8時33分

2 場所

碧南市臨海体育館 会議室

3 出席者等

(1) 出席者

杉浦直基、近藤美孝、榊原満、杉浦民生、川隅義孝、井上浩之、伴野義雄、
山田正教、竹内綾子、石川いづみ

(2) 欠席者 なし

(3) 事務局職員

教育部長 奥谷直人、スポーツ課長 岡本和雄、スポーツ係長 杉浦宏和、
スポーツ担当係長 角谷健二

(4) 傍聴者 なし

4 議事の要旨

(1) あいさつ（奥谷直人教育部長）

(2) 自己紹介

(3) 議題

ア 委員長及び副委員長の選出

事務局からの提案の後、委員の承認により以下のとおり決定した。

委員長 杉浦直基（スポーツ協会選出委員）

副委員長 近藤美孝（スポーツ協会選出委員）

イ 各種統計数値の推移について

事務局から資料2-1に基づき、中間見直しの経緯、見直しの主な視点及び市政アンケート結果による施策等の反映箇所について説明した。

事務局から資料3に基づき、各種統計数値の推移について説明した。

（質疑の内容）

【委員】 市政アンケートの回答件数ですが、当初策定の時と中間見直しではどのような数字でしょう。

【事務局】 前回のアンケート回答件数は824人、今回が速報値で579人です。

【委員】 アンケート全体から、スポーツに関するところを抜粋しての結果ということですか。

【事務局】 市政アンケートの中のスポーツに関する部分ということになります。

【委員】 アンケート調査は全体で何人ぐらいに実施していますか。

【事務局】 発送は1,500人程度。回答件数は年々下がってきている。

【委員】 統計的にみて、碧南のスポーツ人口がもうちょっと人数がいるのかなという気がしているのですが、アンケートの回答をできるだけ多くの人から得ていただきたいと思いました。少し人数が少ないかと。

【委員】 『スポーツ施設の満足度』ですが、スポーツ施設が漠然としている。公民館などの施設も入っているのですか。

【事務局】 あくまでスポーツ施設という聞き方です。

【委員】 実際には、公民館で卓球などをする方もいると思う。そう言った部分に入らないのですね。

【事務局】 それぞれの回答者の認識に任されています。

【委員】 「学ぶ」元気ッス！『スポーツ活動の際に指導してくれる人がいる市民の割合』というところで、“指導してくれる人がいない”というのは、ある意味スポーツ活動に対して自立しているとも受け取れる。ここが増えていくことが単純に良いのか、といった辺りの解釈が難しい。無回答34人というのも、答えにくのかなとも思いました。

【委員】 無回答の人というのは、どういう事なのでしょう。

【事務局】 1,500人の方からの回答なので、スポーツをしていない人は無回答になってしまうのではないかと考えられます。スポーツに特化したアンケートであれば、もっと違う答えが出てくるかと思いますが、市全体の色々な分野の中のスポーツとして市民の方々がどう感じているかという、一般的な思いを捉えているアンケート構成になっていますので。

【委員】 “指導してくれる人がいない”というのは、やりたくても指導してくれる人がいないと捉えるのか。指導者として、一生懸命やっているつもりでも“いない”と言われるとどうか。

【委員】 ウォーキングなど、競技によっては必要とされないものもありますよね。

【委員】 アンケート対象者の年代は。

【事務局】 無作為抽出ということで、まだしっかりした集計が出されていないため、年代の構成はまだ明確にお答えすることができません。

【事務局】 一般市民ということで、以前は20歳ということでしたが数年前から選挙の年齢が18歳に引き下がったということもあったものですから、高校を卒業した18歳以上の方で無作為で1,500人の方にお答えいただいたと思います。高校生は含まれないと理解しています。

【委員】 選挙人名簿の中から無作為にということでしょうか。

【事務局】 住民登録の中から無作為となります。

【事務局】 このスポーツ推進計画策定時ですと20～60代で分けていますが、20代が11.5%。30代が11.2%、40代が17.0%、50代が18.8%、60歳以上が39.2%、不明が2.3%ということでした。今回もこれに近いものになるかと思われまます。

【委員】 「極める」元気ッス！という部分で、当初が33人17団体、今回が29人36団体、目標値は60人23団体ですが、この数値はどのようにして求めているのですか。

【事務局】 これは、スポーツ奨励費を支払った件数で、2人以上（ペア）の競技については、団体として計上しています。団体数が増えている状況ですが、平成29年度より件数の計上をこのように改めさせていただいたことによるものです。目標としては、両者を足した数となります。

【委員】 全体的に言うと目標値がすごく高いですね。相当頑張らないといけないという設定で、当初の計画がかけ離れたパーセントなのはこういったことで。

【事務局】 各市町が「スポーツ推進計画」の中間見直しを行っていて、「週1回以上スポーツを行っている住民の割合60%」を50%に落としている自治体もありますが、碧南市としては今まで頑張って掲げていた60%を中間見直しで落とすたくないという思いがあります。ただ、他の目標値を見たときに、まだ半分に満たない部分もありますので、「ここは少し見直したほうがいいんじゃないか。」という事であれば、数字を落とすこともあります。反対に、ほぼほぼ達成できているような数値であれば、伸ばしていく事もありますので、ご意見いただければと思います。

【委員】5年前ですが、目標というのは高いほうがいいじゃないか、という意見でこの数字が出たんだと思います。

【委員】55%にするか、という意見もありましたね。

【事務局】スポーツ振興計画（スポーツ推進計画の前の計画）では、目標が50%でした。スポーツ推進計画を作るときに、55%なのか60%なのかという議論がありました。

ウ 碧南市スポーツ推進計画（中間見直し）案について

事務局から資料2及び資料2-2に基づき、スポーツ推進計画の中間見直し（案）について説明した。

（質疑の内容）

【委員】指導者の講習についてなんですが、これはスポーツ協会の団体のみなのか、レクリエーションの団体も入るのか。

【事務局】事務局としては、指導者としての知識が一番必要なのは少年団、また中学校の部活動支援だと考えています。外部講師も含め、指導がなかなか行き届いていない（育成が進んでいない）部分があると思っています。各競技の指導というより、精神的な部分、指導の基礎となる方針などで、例えば、体罰やケガの予防と応急処置等といった基礎的な部分を中心に、全体に関わることとしてスポーツ協会の方に限らずレクリエーションも含め、5回程度の講習会を組みたいと考えています。

【委員】主な関連計画のところ、「碧南市公共施設等総合管理計画」とあるんですが、何かやりますか。

【事務局】各公共施設について、何年に建てられ、耐用年数は何十年とあるが、更にそれを伸ばしましょうと言う計画です。施設を建てた時期や耐用年数により建替え時期が集中してしまうと、予算的にも対応できないということで、今ある施設を計画的に修繕して行きましょうということです。

【委員】今年は何処をやりますよ、というような目に見える形ですか。他所で聞かれたときに、予定・計画がありますというような。例えば、臨海公園グラウンドですが、今は原因がわからないような状態だけれども、男子トイレの雨漏り、もう直した所でもあの状態では本当に直したのかと思われる。

【委員】臨海体育館も、エアコン修繕や照明のLED化をしましたよね。その辺は

アナウンスした方が良いんじゃないですか。第1体育室を使っていて、LED照明になって本当に明るくなって、雰囲気は全然変わった。

【委員】バドミントンは眩しくないの。

【委員】眩しいです。明るすぎます。

【事務局】他の競技からも明る過ぎると話を聞いています。現在、LED照明への更新作業中のため行えていませんが、調光が可能になります。更新が終了したら調整していきます。

【委員】調整できるのですね。競技に支障がでますので。

【委員】柔道は明るくて良いです。今の明るさは最高です。

【委員】今、プロスポーツで卓球とバドミントンは周りが暗くて、選手だけが明るい。

【委員】最初に、中間見直しの主な視点ということで、3点だしていたうちの「スポーツを通じた障害者・高齢者など多様な人々の社会参画と共生社会の実現」というのは、この計画の中のどこに入っていますか。

【事務局】資料2、26ページに「障害者・高齢者のスポーツ機会の創出」という項目があります。資料2-2、5ページ下から2つ目に、団体やへきなん総合型スポーツクラブなどの支援・協力により、『競技としてのパラスポーツ』と『障害者と共に楽しめるパラスポーツ』ということで、この部分に入れさせていただいています。

【委員】パブリックビューイングや、碧南にゆかりのある人というところで、例えばスポーツ観戦というところでテレビや有料のネット配信では、なかなか普及する機会がない。是非、行政から発信していただかないと、ビーチサッカーなんかもそうだが、色々なスポーツにスポットライトが当たらないと思う。SNS、YouTube、オンラインゲームなどに深く入り込んで行けるような取り組みをしていただけると、普及が上手くいくのかなと思います。

【事務局】実際に、ビーチサッカーですと日本ビーチサッカー連盟が専用のYouTubeアカウントを持っていて、碧南での試合も流していただいたりもしていたんですが、皆さん知らないというのも確かです。そういった情報を流すというような部分も行政の役割かと思いますが、そういった情報があれば逆に、それも市のホームページ、広報掲載等するのも一つの手段かと思いますが、

機会を捉えて一生懸命やっていくしかないと思っています。

【委員】facebook、Twitter だとか、具体的な名前だと慣れ過ぎているので、YouTube など新しいものを入れても。ただ、5年するとまた色々変わっていくと思いますが。

【委員】ポスターなどよりも、SNSの方が情報が早い。町内会に入っていない人は、広報を見ていないから情報が伝わらないし、新聞を取っていない家庭もほとんどで、スマホで情報を得ているので、少し情報発信の方法を考えてみるのも良いかな。

【委員】来年、オリンピック・パラリンピックがあって、碧南からもパラカヌー競技の選手候補がいると思いますが、体育館でパブリックビューイングで盛り上げるのはどうでしょうか。

【事務局】碧南ゆかりの選手がオリンピック・パラリンピックに出場するのであれば、パブリックビューイングは是非とも考えたいと思います。また、私たちもそれを楽しみに、今から活躍を期待したいと思っています。

【委員】策定の内容自体は、これから目指していくところではありますが、具体的に25ページにある市内企業との協定について、意外と市民に伝わっていないような気がするので周知の仕方に工夫を。努力している人を応援したい。せっかく計画策定をおこなっていくならその辺も考慮していただくといいかな。それから、全般的にスポーツをやらない人は本当に関心が無いですね。広報についても、臨海体育館は市の端なので、市役所本庁の待合場所でスポーツ関係の広報をすることも必要なのかな。

【委員】スマホで見られると良いですね。スポーツ教室でも、若いお母さんはスマホで何でも情報を集めているから。広報よりもスマホですね。

【委員】今、市の職員の方がインスタグラムとかを使っていると思うんですが、そういうところで情報発信すると人が集まりやすいですね。市の施設だけでなく、スーパーだったり人が集まりやすいところに情報があると、キッカケになり易いのかなと。

【事務局】広報活動はすごく大事だと思うのですが、なかなか出来ていないのが現状です。

これまで市は、所属の縦の関係で色々な事業を行うことが多かったと思い

ます。しかし最近では、横で繋がろうということで、スポーツイベントの際にも部課を横断しながら、機会があれば記事・話題を入れてもらうというような取り組みを始めています。例えば今年、てらまちウォーキングのチラシの中に、ビーチコートで開催された試合を載せてもらうなど試みてはいますが、正直伝わりにくい。いろいろな媒体・機会を使いながら情報発信していきたいと思いますので、足りないところがあればどんどん言っていただきたい。また、情報発信は市だけで完結するものでもないもので、皆さんと一緒にやっていけたらと考えていますのでよろしくお願いいたします。

【事務局】 1点お伺いしてもよろしいでしょうか。資料2-2、12ページの「現状の課題」に1つ付け加えたところです。「ラグビーワールドカップ」というような具体的に競技名をだしていますが、問題ないでしょうか。全般的なところで書いていたほうが良いでしょうか。

【委員】 イメージが湧きやすいので良いと思います。

【委員】 これがないと何だかわからない。これは、その当時に作ったものだから、5年先はまた別のことがあって、見直しの時に「これがあったね。」と具体的に分かる。

【事務局】 10ページ「(1) スポーツをする機会の創出」⑤で運動部活動の時間が縮小されていることから、部活動支援事業で青少年の育成といった面を市として実際に行っています。25ページ以降の「ひとで支える」の部分に子どもたちを指導する機会を作っていくような項目を挙げると、生涯スポーツにつながっていくような基盤づくりができるかと思います。

【事務局】 4ページ、①の2段落目「また、次世代を担う・・・。」の一文を入れさせていただきます。これは、スポーツ課としても指導者がいないことも懸念していて、子ども達が大人になったら指導者になって帰ってくるような好循環ができると良いと考えています。このことは、最終的にはスポーツ実施率の向上にもつながると思っています。

【事務局】 5ページ、基本理念の部分で「スポーツは、心身…」から始まる文章中で「運動競技その他の身体活動」という書き方がされていますが、スポーツの定義が少し変わってきていると感じますので、もう少し考えさせていただきたいと思いますのでご承知をお願いします。

【委員】全体的に見ると、小学生から大人という感じがしますが、今、トップアスリートは3歳から。そういう機会が必要ではないかと。そういう文章を入れてもらえると良いのかなと。緑地で小さな子を走らせている光景を見ると、グラウンドでなくても公園とかでも、そういうことができないか。

【委員】同じような意見になりますが、計画づくりの時も少しお話したかもしれないですが、『ここに行ったら、皆で体を動かすことができるよ。』、総合型に近づいてくると思うんですが、ドイツでいうと地域スポーツクラブみたいな。もし碧南でも『臨海地域に来たらやれるよ。』とか、そういうものがあると大きく積みあがっていくのかなと、そういうような文言があるといいのかな。

【委員】自分たちの世代は、みんな外で遊んでたんですけど、今はそういうのは難しい。幼少期に体を動かすことが少ない。幼少期に、競技関係なく体を動かせるような環境があればとても良い。今は色々な問題がある。

【事務局】社会福祉協議会の子育て支援センターだと、小さい子のリトミックや様々なやってみえると思いますが。

【委員】子どもさんが自由に、のびのびと遊べる環境・場づくりをしています。先ほどの情報発信についてですが、社会福祉協議会では「子育てナビ」というのがあるんですね。そこから、何をどういう風にやっているかという情報発信を常にしていまして、親御さんが見て、市外からも来ていただいているということで、いろいろな取り組みをしています。子育て中のお母さんにとっては、情報が一目で分かりますので、有効に活用されています。スポーツとは外れますけど、情報発信をするというところではとても効果的に使われています。

エ 今後のスケジュールについて

事務局から資料2-1に基づき、今後のスケジュールについて説明した。

(4) その他

次回の日程 令和2年1月21日（火）午後7時から 臨海体育館会議室